



相手を尊重するということ

無意識な言葉の中に

- ① 日本語お上手ですね。
- ② 女性で管理職ってすごいですね。
- ③ 旦那さんは家事育児に積極的で良いですね。

これらは、日常会話でよく使われる言葉です。皆さ
まも、ご自分が会話の中
で使ったことがあったり、使
ったことがないにせよ、一
度は似たような言葉を聞い
たことがあったりするので
はないでしょうか。

これらの言葉は一見、相
手を褒めているように思え
ます。きつとこの言葉を投
げかけた側にも、相手を傷
つけようとする意図はない
のでしょうか。

しかし、その実、ここに
隠された偏見が存在してい
ます。

まず一つ目の「日本語お上
手ですね」ここには、見た
目から「外国人であることを
判断」し、そして、だから「日
本語を話せない」という見方
をし、そうであるとして、自
分の
中で決めつけたから、この
ような言葉を発したという
過程が存在します。

二つ目については、もう
お分かりだと思えます。こ
こには、「管理職には「男性」
がなるもの」という思い込み
があります。三つ目につい
ても同様です。相手のパー
トナーを褒めようとしたこ
とは分かりますが、ここにも

「家事育児をするのは「女性」
である」という思い込みがあ
るのです。（そもそもパート
ナーは異性だという思い込
みもあるのかもしれない）
私も、教壇に立っていた
ころ、よく使ってしまった
いた言葉がありました。そ
れは、「普通は○○だよ」と
いう言葉です。この言葉にも、
多数を正当であると決めつ
け、相手をそうではないも
のであると決めつける無意
識な偏見が含まれています。
（私は幸いにも、その言葉を
聞いた同僚からの指摘で気
付くことができました）

これらは、マイクロアグ
レッション（小さな攻撃性）
と言われています。197
0年にアメリカの精神医学
者であるチェスター・ピア
ス氏が提唱したもので、2
000年にコロンビア大学
教授のデラルド・ウィング
・スー氏によって再定義され、
対象が人種のみから、あら

ゆる社会的に疎外されてい
るといわれている集団に拡
大しました。

このマイクロアグレッシ
ョンが難しいのは、前述の
通り、発言をした本人が「自
分は差別している」という意
識がないことです。むしろ、
「自分は差別はしないよ」と
相手にメッセージを送ろう
と考えている人にも、無意
識であるからこそ起こって
しまうことなのです。です
から、もし指摘されたとし
ても「相手が考えすぎだ」「そ
の程度気にしなければ問題
ない」という考えに至ってし
まうことが多々あるのです。
また、悪意がない発言であ
るため、発言者を周りの人
が庇ってしまう傾向もある
ようです。これが問題の解
決を一層難しくしています。

誰もが一人の人として 尊重されるために

マイクロアグレッション
と聞くと、「小さい」という
イメージが浮かんでしま
います。しかし、マイクロア
グレッションを受けた本人
は、人生の中で同じ言葉を
繰り返し聞くことになりま
す。心に受けた傷は、決し

て小さくなく、健康を害し
てしまうという報告もあり
ます。

私たちは、相手を傷つけ
る側にも、傷つけられる側
にもならないために、常に、
自分の発する言葉が相手に
どのような影響を与えるか
を考えなくてはなりません。
また、物事を広い視野で考え、
自分が知らず知らずのうち
に多数派の立場からくる見
方をしていないかを振り返
らなくてはなりません。無
意識に起こってしまうこと
であるからこそ、「自分は
大丈夫」と思うのではなく、「自
分にも起こりうることだ」と
いう認識をもつことが大切
です。そのような私たちの
心がけが、誰もが一人の人
として尊重される社会を創
りあげられるのです。

私たちの「つながり」も、
相手を思いやる気持ちから
生まれます。しかし、その
温かい思いから生まれた言
葉が相手を傷つけたとした
ら、それは本当に悲しいこ
とです。思いやりの心を相
手にまっすぐに届けるため
にも、ぜひ一度、立ち止ま
って考えていただけたらと
思います。